

## 足取り軽く戦跡めぐり

西坂戸 大山 茂

10月20日、九条の会さかどが「坂戸の戦跡めぐり」を開催しました。参加者は、14名でした。日高九条の会から参加してくれた方もいました。

運営委員の大山が作成した資料をもとに、「歴史的背景、日本帝国主義の揺れる戦略、首都圏の『若者の街』について、陸軍坂戸飛行場の秘められた歴史として「住民の力で米軍基地化を阻止」「飛行場跡地を桜と緑の新名所に」を学んだ後、戦跡めぐりに出発しました。

最初に市役所第3駐車場に残されている「陸軍と刻まれた標石」、続いて今は坂戸中の体育用具倉庫として使われている2棟の「弾薬庫」、弾薬庫脇の「被爆アオギリ二世」、議員駐車場の「ペトン(駐機場のコンクリート)」、筑波大付属坂戸高の「防火用水桶」、市役所通用口脇の「平和都市宣言」を歩きました。

今年の「戦跡めぐり」では激しい雨が降りしきっていたため、歩ける場所も限られましたが、好天に恵まれた今年は足取り軽く「戦跡めぐり」ができました。

坂戸市には、陸軍飛行場があったこと。そして、戦後米軍の基地にされようとしたとき、開拓農民の運動によって阻止したこと。その跡地に若葉駅周辺の工業住宅がセットで開発されたこと。

この歴史の事実を後世の人たちに伝えていく役割を「九条の会さかど」が担っていくことを示した「戦跡めぐり」の一日でした。

## 8月の語り継ぐ会の感想から

◆ 関口さんの「戦争を体験していなくても体験者から話を聞いて若い人に語り継いでいかねばいけない」との話は、本当にそのとおりでと思いました。昨日、鶴ヶ島市役所で広島平和記念式典に参加した鶴ヶ島の小学校6年生の報告会がありましたが、その小学生たちからも同じ趣旨の発言があり、今回特に印象に残りました。

松本さんの話の中でのDDTは、昭和17年生まれの母から聞いていた話と同様の話して、母の話を思い出しました。

◆ 関口さんのお話は、お母様から直接聞かれただ

けあり、具体性があり、非常に参考になりました。特に子どもの身で飛行場の草むしりをさせられたというお話は衝撃的でした。

松本さんのお話は、静岡のほうでも戦争の深い爪痕があったことを知り、参考になりました。

平和紙芝居は、あじさいの会の方の熱演もあり、臨場感がありました。どちらのお話も戦争を扱ったものらしく、やるせない気持ちにさせられました。

◆ 体験者の方々のそれぞれの思いや語りを聞くにつけ、話を話しただけに終わらせない行動がこれからの正念場になってくることを深く感じさせられました。それは自分がどう行動するかだ。人が、ではない。

今、社会の弱者と言われる立場の人々に、ジワリと戦争の前夜とも言える圧力がかかって来ている。戦争は莫大な金品を、財産を、国民から奪っていく。そして命を。それは真っ先に弱者から始まる。女・子ども・年寄りからまずつぶされていく。今のような高齢者が刑務所にあふれているなどということはかつてなかった。

安倍内閣は、何を言われようと、どう罵られようと意に介さず、まっすぐに改憲と戦争法に突き進んでいる。彼は戦争を本気で始めようとしている。

安保をなくそう！ 生活を守れ！ スローガンは一点に集めて進もう！（溝端町 加川朝美）

◆ 関口久美子さん、松本仁さん、語りをありがとうございました。市民の方々がそれぞれ語ってくださるのはありがたいと思います。

紙芝居の本番前の菊地さんの語りがとても良かったです。若い青年の音響も頑張っていました。音量がすごい役割を果たしています。紙芝居の読みても見事です。和音の効果が素晴らしいです。ありがとうございました。（今野 強）

◆ 関口久美子さんの話はお母さんから聞いたことということだったが、話しぶりがしっかりしていてとても聞きやすかった。このように誰かから聞いたことであっても、自ら思考して話すとうまくいくものだと改めて思い、これならば“語り継ぐこと”も可能だと、これからの期待が持てた。

## 九条の会さかど 早春のつとめ

日時 2月10日(日曜日)11時から14時

会場 坂戸駅前集会施設(2階)

参加費 1,500円(食事と飲み物)

一緒に食べて、一緒に飲んで、一緒に語りあって！

9条のこと、平和のこと、伝えたいこと、やりたいこと、一人ひとりの思いに耳を傾けましょう。食事と飲み物の用意をします。ご参加を2月7日(木曜日)までにご連絡ください(049-282-4968 小林)

松本仁さんは地域で活動されているようなので、その会でも現代の政治や九条のことも話して欲しいものだと思います。(元町 新井竹子)

- ◆ 関口久美子さんのお母様と同年齢の私は疎開小学校の思い出がよみがえり、あの頃、かえって懐かしく、薙刀が体育の時間、何の考えもなく勝つためと、勝てば東京に帰れると思っていました。食糧はまだ戦時中、イナゴ、ヘビ、タニシなどを、子どもたちで取ってきたものを食べるのが当たり前のようなものでした。

先生も代用教員の先生で、すごく怖く団体責任のため一人ミスすると男子はビンタ、女子はゲンコツなど体罰があり、そのため東京に帰りたと思ったほどでした。

茨城の農村にも兵隊さんが2、3人家に泊まっていたことも思い出しました。

当時の子どもたちは、勉強より農家の手伝えばかりでした。今日では考えられないことですが、あの頃疎開していた子どもは、学校で使う鎌がなく、子どもには貸してくれません。大切なものです。裏の牛小屋のあたりで錆びついた鎌でも拾って持っていったものです。知らない経験しながら終戦を迎えました。

終戦になってからのほうが食料も住むことも生活が一段と厳しくなったものです。関口さんのお話し。お母さん、息子さん、そして親戚。色々とその人の人生を思い巡らして聞かせてもらいました。ありがとうございました。

戦争は絶対起こしてはならない。戦争を語り継いでいかなければならないと痛切に考えます。

- ◆ 関口さんのお母様が86歳ということで、私の母と同年齢でした。具体的なお話は、私は母から聞いたこととも重なるものがありました。特に坂戸の方なので、地域性も含め、より具体的で、坂戸の歴史についてももっと学びたいと思いました。今回のことを、お話だけではなく、小冊子のようなものにまとめられても良いなと思いました。

松本さんは「ええげえし」でご活躍とのこと。最近知り合った方が「ええげえし」に関わっていることがわかりました。政治的な話はなかなか難しいところがありますが、少しずつ広がっていくことが大事なのだなと思いました。

紙芝居をみながら最近聞いた母の話を思い出しました。母はアルツハイマー型認知症で、老人ホームに入所しています。ひ孫の写真を見せると「今は平和でいいね」と何度も言います。ホームで歌の取り組みがある時、『花』を歌えないとのこと。東京大空襲の隅田川。身体中火傷。身体を冷やすために隅田川に入ろうとする人々。でも川の水が熱くなっており、さらに火傷をしてしまう人々。おびただしい死体の山々。

その時の悲しさ、悲惨さを思うと、とてもとても歌えないとのこと。いつも涙を流しながら話してくれます。病気のため短期記憶がなくなっていますが、戦争のことはいつまでも覚えていて、繰り返し話すようになりました。ひ孫たちの笑顔を見ると、「戦

争はダメ」という気持ちが湧き出てくるようです。

ちなみに、母は「アベは大嫌い！」です。母の思いを受けとめながらも、私も一歩ずつ少しでも進みたいです。今日はありがとうございました。(戸来 淑子)

- ◆ 九条の会さかどの活動、アジサイの会の活動は素晴らしいと思いました。みんなが理解した上で戦争反対に参加してもらおうという活動が…。

日頃、母から広島のことや戦争のことを聞いていたので、私も戦争大反対です。

10年前から難病を発症し、このように字もうまく書けなくなってしまいました。失礼しました。

今回は、実際に戦争を体験した人々の話が聞きたいです。

- ◆ 太平洋戦争の敗戦から73年間「戦争しない国」日本は、とても誇らしいであります。

- ◆ あじさいの会の菊地さんのお話に、満蒙開拓団の話があった。私の母の父は軍属として満州に赴き、その地で亡くなった。父親を失い、戦中の母の苦労が始まった。リヤカーで北上山地を越えて引っ越したという。そんなことを聞いたのを、50年ぶりくらいに思い出した。

「赤紙が来ないといいね。お国のために行くのは仕方ないけど、とにかく命だけは持って帰って来ておくれ…」との関口さんのお母さんの言葉。あの時代の母親の言葉として、私も語り継ぎたいと思う。

## 原発と核のゴミを考えるつどい 「核のゴミ、どうするの？」

山田町 小林忠夫

ニュース100号・101号に紹介された「原発と核のゴミを考えるつどい」が、10月6日に「原発のない社会をめざす鶴ヶ島市民の会(脱原発・鶴ヶ島)」の主催で、鶴ヶ島市の富士見市民センターで開催されました。

この企画は、2月に開催された九条の会さかどの「早春のつどい」で取り上げた「坂戸にも核のごみ？フクシマ・廃炉・地層処分を地質学」の第2弾にあたるといってもよいもので、九条の会さかど、地学団体研究会埼玉支部、応用地質研究会の3つの組織が協力団体として参画しています。

講師は、地学団体研究会(地団研)が取り組んでいる「福島第1原発地質・地下水団体研究グループ」と「科学的特性マップ問題研究会」の2つの研究グループに所属する関根一昭(原発と核のゴミ問題を中心に)、末永和幸(福島第1原発の汚染水問題を中心に)両会員がつとめました。

参加者は73名、講演に対する反響は大きく、30分間用意した質疑時間では間に合わず、終了後もロビーで継続という盛況ぶりでした。

このつどいに協力参画した地団研の会員としては、ぜひ第3弾以降を計画したいと考えています。ご賛同いただければ幸いです。

## 今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

1月24日、2月28日、3月28日(第4木曜日10時~12時)  
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室